



Belantara
FOUNDATION



ASKUL-BELANTARA PROJECT REPORT Forest Restoration

in Giam Siak Kecil - Bukit Batu Landscape, Riau

Supported by:  **ASKUL**

< 日本語版 >

June 2026 | Belantara Foundation

目次

はじめに	1
プログラムの目標	2
活動内容	3
苗の準備 / 樹種リスト	3
土地の整備 - 活動エリア	4
土地の整備 - 雑草類の伐採、マーカ―の設置、植樹穴の掘削	5
植樹活動	6
樹木調査	10
メンテナンス	11
植樹・植え替えのためのメンテナンス	12
枯死木の植え替え	13
警備小屋の建設	15
財務概要	16



はじめに Introduction

ギアム・シアク・クチル=ブキット・バトゥ(GSK=BB)景観地域の一部区域では、森林機能の低下(劣化)と土地の変化(森林破壊)が進行しています。この地域における劣化と森林破壊は、森林火災と(違法植林などによる)土地被覆の変化が原因で発生しています。

劣化した森林(泥炭林と施業放棄森林を含む)の生態系機能を回復するためには、回復努力が必要です。

回復とは、劣化した森林が生物多様性の生息地、水文システムの緩衝機能、および炭素貯蔵としての機能を回復できるように、森林の状態を再生し維持することです。森林回復は、気候変動対策(適応と緩和)の重要なアクションでもあります。

プログラムの目標 Program Objectives

ギアム・シアク・クチル=ブキット・バトゥ景観地域における100ヘクタールの劣化した森林の回復を通じ、持続可能な開発目標（SDGs）の達成を支援する。

長期目標

- 回復区域における生物多様性の構成を改善
- タフラSSHの地域コミュニティの福祉と経済的機会を向上させる
- プロジェクト区域内の二酸化炭素吸収量と炭素貯蔵量を増加させる
- タフラSSHの劣化区域における森林被覆率を増加させる

短期目標

- 昆虫の種多様性の増加
- プロジェクト区域のコミュニティのメンバーのうち、少なくとも20のコミュニティは経済的利益を得る
- 樹木苗の50%はコミュニティによって現地で育てられたものを調達する
- プロジェクト区域内の二酸化炭素吸収量と炭素貯蔵量の増加
- タフラSSHの100ヘクタールの劣化地域に（実が食用になるなど）多目的な樹種が植樹される

活動エリア

インドネシア、リアウ州、
ギアム・シアク・クチル=ブキット・バトゥ景観地域内のミナス・タフラ地区にあるスルタン・シャリム・ハシム大森林公園

活動内容 Activities

苗の準備

Seedlings Preparation

森林再生活動では、Tahura SSHの残存森林から採取したインドネシアの自生種を中心に植樹・植え替えを行っています。苗木の育成は地域住民である森林農家のコミュニティと連携して実施しており、コミュニティは森林での苗木採取から育苗施設での管理まで、一貫して携わっています。

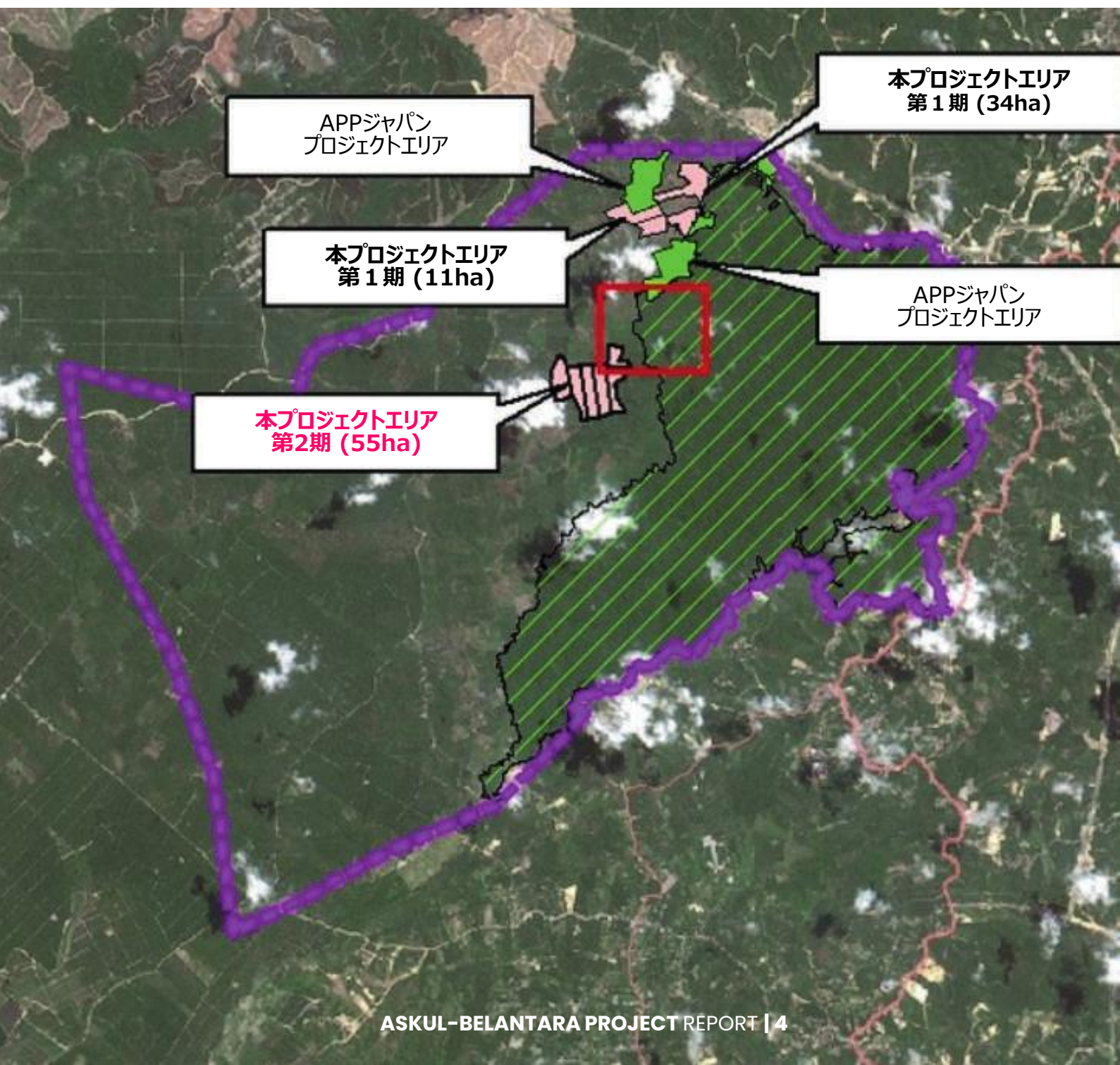
苗木は植樹可能な大きさになるまで4～6か月程度育成され、その後、初回の植樹やメンテナンス時の植え替えに活用されます。

Seedlings preparation in nursery

土地の整備 – 活動エリア Land Preparation-Project Area

プロジェクトの第2期は、ミナス・タブラ地区(MT)のスルタン・シャリフ・ハシム大森林公園(SSH)内の55haを対象としています。下の図では、SSHの境界を紫色の線で示しており、本プロジェクトの対象エリアはピンク色で示しています。

-  SSHの境界線
-  ASKULのプロジェクトエリア
-  APPジャパンのプロジェクトエリア



土地の整備 – 雑草類の伐採、マーカースの設置、植樹穴の掘削 Land Preparation-Land Clearing Markers Installation, Making Planting Hole

第2期プロジェクトエリアの土地整備は、2025年末に開始されました。
作業内容には下草・雑木の伐採や苗木を植樹するための穴の掘削、植樹ラインの区画設定が含まれます。土地開墾作業は2026年1月に全て完了しています。



山刀を用いた下草・雑木の伐採作業



山刀を用いた下草・雑木の伐採作業



植樹場所の整地と植樹穴の掘削

植樹活動 Tree Planting

2026年4月までにベランタラ環境保護基金はミナス・タフラ森林管理ユニットと連携し、本プロジェクトにおいて55ヘクタールのエリアに27,500本の苗木を植樹しました。



自生種の苗を植樹



樹種リスト

List of Tree Species

No	現地での名称	学名	科	IUCN レッドリスト	植樹本数
1	Balam	パラキウム・ブルッキー	アカテツ科	CR 深刻な危機	2,009
2	Meranti batu	パラショレア・アプテラ	フタバガキ科	EN 危機	140
3	Cengal	ネオバランオカルプス・ヘイミー	フタバガキ科	EN 危機	840
4	Kuras	ドリオバラノプス・オブロンギフォリア	フタバガキ科	EN 危機	120
5	Merawan	ホペア・メンガラワン	フタバガキ科	VU 危急	80
6	Meranti	ショレア属	フタバガキ科	VU 危急	1,652
7	Giam	ギアム	フタバガキ科	VU 危急	50
8	Balangeran	バランゲラン	フタバガキ科	VU 危急	5,200
9	Mahoni	マホガニー	センダン科	NT 準絶滅危惧	800
10	Kemiri	ククイノキ	トウダイグサ科	LC 低懸念	3,000
11	Alpukat	アボカド	クスノキ科	LC 低懸念	1,000
12	Pinus	ヨーロッパアカマツ	マツ科	LC 低懸念	200
13	Medang	リトセア・ウンベラータ	クスノキ科	LC 低懸念	504
14	Kelat	フトモモ属	フトモモ科	LC 低懸念	270
15	Raman	ブーエア・オポシティブォリア	ウルシ科	LC 低懸念	240
16	Marpayang	スカフィウム・マクロボダム	アオイ科	LC 低懸念	2,227
17	Trembesi	モンキーポッド	マメ科	LC 低懸念	200
18	Kandis	ガルシニア・キサントキムス	フクギ科	LC 低懸念	1,364
19	Meranti rambai	ショレア・アクミナータ	フタバガキ科	LC 低懸念	1,138
20	Petai	ネジレフサマメノキ	マメ科	LC 低懸念	6,769



IUCN レッドリスト	樹種
CR 深刻な危機	1
EN 危機	3
VU 危急	4
NT 準絶滅危惧種	1
LC 低懸念	11

項目	Total
植物の科数	12
樹種数	20
苗木総数	27,803





自生種の苗を植樹



樹木調査 Tree Census

植樹が完了した55haの対象エリアについては、順調に成長している樹木の本数を確認するため、樹木調査を実施しました。この調査は植樹完了後、遅くとも1か月以内に行われ、枯死した樹木が確認された場合は、作業員が再植樹を行います。

植樹後に実施する樹木調査の主な目的は以下のとおりです。

1. 苗木の生存率を確認すること
2. 植え替えのメンテナンスプランを立てること
3. 樹木の健康状態および成長状況を評価すること
4. 植樹作業の品質を管理・確認すること
5. 今後のメンテナンスに必要な対応を決定すること



メンテナンス Maintenance

55haの植樹エリアにおいて、植樹後のメンテナンス作業を実施しました。本作業は2025年12月から2026年6月まで行われ、植樹した苗木周辺の下草やシダ類の除去、施肥、枯死木の補植（植え替え）などを実施しています。あわせて、エリア内の植樹ルートの整備や調査も行いました。

作業にはラントウ・ベルトウ村の地域住民が参加し、ベランタラ環境保護基金のスタッフのサポートのもとで進められています。





植樹・植替えのためのメンテナンス

本プロジェクトでは、植樹および植え替えた苗木の定着と成長を促進するため、メンテナンスを実施しています。この作業は、植樹した苗木の生存率向上を目的としています。今回のメンテナンスおよび植え替え作業の実施内容は、以下の通りとなります。

2025年12月	メンテナンス	2.1 ha
2025年12月	枯死木の植え替え	1,680 本
2026年4月	枯死木の植え替え	8,517 本



枯死木の植え替えメンテナンス Replanting Dead Trees

枯死木の植え替えは、生物多様性を守り、持続可能で豊かな森林を育てることを目的として実施されています。植樹した苗木は、環境ストレスや病害虫、異常気象などの影響により、一定の割合で成長せずに枯れてしまうことがあります。

そのため、枯死した苗木を植え替え、森林再生に必要な植生密度を維持することで、豊かな森の再生を目指します。



Selasa, 17 Februari 2026 10:

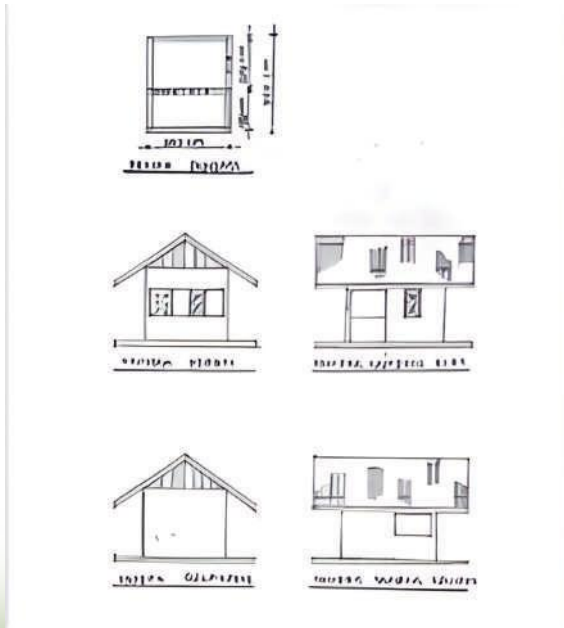
Index num

自生種の苗を植樹

警備小屋の建設 Construction of Security Post

2025年末には第2期植樹エリア付近に、作業員が休憩や作業の拠点として利用するための小屋w p 建設しました。この小屋のサイズは3m×3.5mで、森林農業グループである地域住民とミナス・タフラ森林管理ユニットのメンバーによって建設されました。

現在、小屋は完成して作業員が日々の活動で活用しています



小屋の設計図



建設時の様子



建設時の様子



完成した小屋

財務概要 Financial Summary

収入

項目	合計 (IDR)
前回報告からの残高	Rp 486,764,490
Term4 2025年12月入金分	Rp 140,123,000
	Rp 626,887,490

支出

活動	合計 (IDR)
調査	Rp 5,879,400
諸準備	Rp 7,279,500
協力者トレーニング	-
苗床整備	-
土地の整備	Rp 71,700,000
植樹	Rp 228,503,600
メンテナンス (モニタリング)	Rp 48,228,900
保護活動	Rp 4,000,000
評価	Rp 15,160,314
機材手当	-
ベースライン評価	-
管理作業など	-
	Rp 380,751,714

収支

活動	合計 (IDR)
収入	Rp 626,887,490
支出	Rp 380,751,714
	Rp 246,135,776



Belantara
FOUNDATION

For more information, visit www.belantara.or.id
or contact us at info@belantara.or.id



Belantara Foundation

HQ Tower, Floor 3rd, Jl. Timor No. 6, Menteng,
RT.9/RW.42Gondangdia, Menteng, Jakarta Pusat,
DKI Jakarta 3INDONESIA - 10350



Belantara Foundation



Belantara_Found